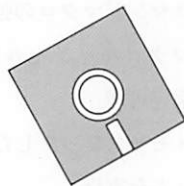


マルチファイル管理ソフト

XDIR

(Ver. 4.2)



対応機種 ● PC-98 シリーズ

マルチウィンドウ、TREE 表示、エディタ内蔵

マルチウィンドウを使って複数ドライブのファイル情報を TREE 表示する。マウスに対応しており、メニューウィンドウのサポートで操作性もよい。使いやすいエディタが内蔵されており、高機能なファイル管理ソフトである。

最近、フリーウェアの世界でもファイル管理ソフトが数多く登場していますが、今回紹介する「XDIR」は、メディアの異なるディスクを扱える、内部サポートする独自の方法で圧縮・解凍管理を行う、マルチウィンドウ（最大 10 ウィンドウ）による複数ドライブの分割表示が可能、マウスやアップ・ダウンメニュー操作によるコマンドの実行、そして、エディタを内蔵しているなど、他のソフトには見られないユニークで高機能なファイル管理ソフトです。

写真 1 に、その XDIR のオープニング画面をまず紹介します。

マルチウィンドウで複数ドライブを分割表示

XDIR の特徴として、以下のようなものがあげられます。

- ① マルチウィンドウ（最大 10 ウィンドウ）による複数ドライブの分割表示。
- ② TREE 形式によるディレクトリ、ファイル表示（表示形式変更可能）。
- ③ マルチテキスト表示。
- ④ テキスト表示から内蔵エディタへ、またその逆もワンタッチで可。
- ⑤ マルチテキスト表示でのファイル内容の比較が可能。
- ⑥ 16 進ダンプ表示。
- ⑦ 内部サポートする独自の方法での冷

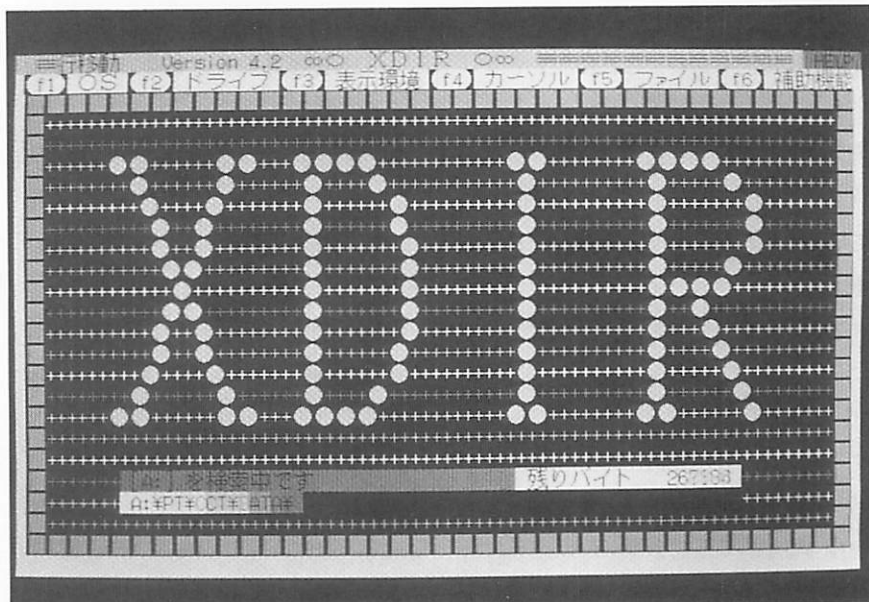


写真 1 XDIR のオープニング画面

凍・圧縮・解凍管理。

- ⑧ 下層サブディレクトリごとの冷凍・圧縮管理と、その内部の TREE 表示。
- ⑨ サブディレクトリごとのコピー、および削除が可能。
- ⑩ ファイル名変更。
- ⑪ サブディレクトリ作成、削除。
- ⑫ アトリビュート表示、変更。
- ⑬ ファイル検索。
- ⑭ マウスやアップ・ダウンメニュー操作によるコマンド実行が可能。
- ⑮ 外部コマンドの実行。
- ⑯ マクロ機能によるコマンドの連続実行。

⑰ EMS メモリに対応。

⑱ オプションスイッチの設定によって、ほとんどの部分のカラーカスタマイズができる。（コマンドラインでのオプションは、沢山あり過ぎて誌面では扱いきれませんので、XDIR . HLP の最終部分を参照して下さい）



XDIRのシステムの作り方 解凍作業から起動まで

オリジナルディスクを壊さないために、まず最初に、添付のフロッピーディスクのバックアップをとって下さい。

①バックアップ用のディスクを初期化します。AドライブにMS-DOSのシステムが入っているディスクを入れ、リセットスイッチを押します。MS-DOSのプロンプト(A>)になったら、Bドライブに新しい2HDのディスクを入れ、次のような手順で2枚のディスクを初期化します(1枚は実行ディスクを作るためのものです)。

```
A>FORMAT B: /M/S
```

②AドライブのMS-DOSシステムディスクを付録のものとし差し替え、次のようにしてコピーをとります。

```
A>DISKCOPY A: B:
```

③コピーが終わったら、Aドライブのオリジナルディスクは抜いて保管しておいて下さい。

④コピーをとったBドライブのディスクをAドライブに入れ、もう一枚の初期化したディスクをBドライブに入れます。

⑤はじめに「LHARC」を解凍しておきます。次のように入力、実行して下さい。

```
A>LHARC I13 D
```

⑥次に、以下のように入力してAUTO.BATを実行すると、XDIR 42.LZHをBドライブに解凍します。

```
A>AUTO B:
```

もし、Cドライブに解凍するならばB:の部分でC:に変更して、またハードディスクのサブディレクトリに解凍するならば、たとえばC:¥XDのようにして実行して下さい。

続けてDEMO.BATを実行すると、XDIRのデモが始まります。デモを見たくなければ、始まった段階でESCキーを2、3度押し、Yキーを押します。

同梱のCONFIG.SYSには、PRINT.SYSとMOUSE.SYSがデバイス登録してあります。マウスを使わないなら、DEVICE=MOUSE.SYSの行を削除して下さい。XDIRのエディタを使って訂正できます。MS-DOSのPRINT.SYSは各自用意して下さい。

起動と終了

高機能なソフトだけに、ファイルサイズが約190Kバイトと若干大きめではありますが、「XDIR.EXE」単体で起動できます。

ヘルプを利用するには、「XDIR.HLP」をXDIR.EXEと同じドライブ、またはディレクトリに置きます。これで、HELPキーを押すことにより、いつでもヘルプファイ

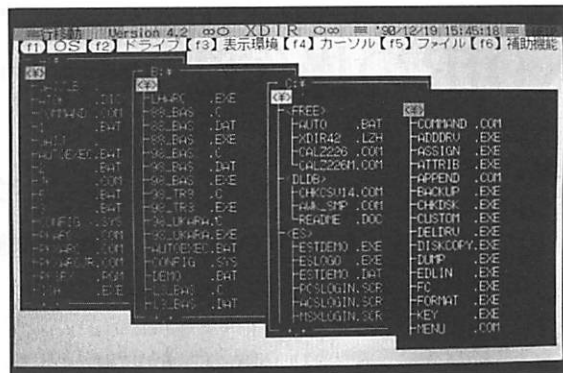


写真2 マルチウィンドウの画面

ルの全体を見ることが可能です。環境ファイル「XDIR.ENV」も同じところに置くといいでしょう。

XDIR.HLPは、急いでいるときなど画面上で見えるには向いていないようなので、これは「XDIR.DOC」とリネームし、あらかじめ印刷しておいてゆっくり読んで下さい。「XDIR 2.HLP」を「XDIR.HLP」とリネームして使うといいでしょう。次のように入力して実行します。

```
A>REN XDIR.HLP XDIR.DOC
```

```
A>REN XDIR 2.HLP XDIR.HLP
```

<起動>

起動には、いくつかの方法があります。

```
A>XDIR
```

これはいちばん簡単な起動方法で、カレントドライブ(現在いるドライブ)、またはカレントディレクトリをTREE表示します。

```
A>XDIR A: C:
```

複数のドライブを指定し、起動時に複数ウィンドウを開きます。(写真2)

```
A>XDIR A: LOG¥*.LOG C: TST
```

このようにすると、サブディレクトリ、ワイルドカード指定による起動も可能です。

注意しなければならないことは、A:の後、通常ならA:¥LOGのように「¥」を付けますが、XDIRの場合は、ドライブ名A:やC:の後には「¥」を付けません。ただし、サブディレクトリの後や、さらに2階層目のサブディレクトリやファイル名を記述するときは、必ず「¥」を付けます(LOG¥*.LOGのように)。

<終了>

XDIRの終了は、次のようにします。

①ESCキー、またはQキーを押し、「終了しますか[Y/N]」の問いに対してYキーを押します。

②SHIFT+Qキーで、現在指定のドライブ、ディレクトリに移動して終了します。

XDIRの操作法 (簡易マニュアル)

<記述について>

SHIFT キーや CTRL キー、GRPH キーを押しながら別のキーを押す場合は、[SHIFT]+[B] などと記述し、[<] や [?] などと記載するキーは単独で押します。アクティブウィンドウとは、現在操作できるウィンドウのことを指します。

[-] → [N] のような記載は、[-] キーを押してから、[Y/N] の問いに答えて [N] キーを押すことを意味します。

トグルとは回転の意味で、一度押すと“設定”、再度押すと“解除”という具合になります。

コマンド操作の基本

f・1 ~ f・6、f・10 がプルダウンメニュー (写真3) になっています。慣れるまでは、このメニューで操作するといいでしょう。各コマンドを覚えるのは大変ですが、覚えてしまえば操作も速くなりとても便利です。

ここでは、各モードに応じたコマンド操作をまとめておきます。

文字列入力モード切り替え

[XFER]+[X]

初期設定では、E、G、/コマンドにおける文字列入力で、大文字入力 (マウス対応) モードになっていますが (?、<、> は SHIF T キーを押さない)、この操作で、カナ、小文字、漢字入力 (マウス未対応) モードに変わります。

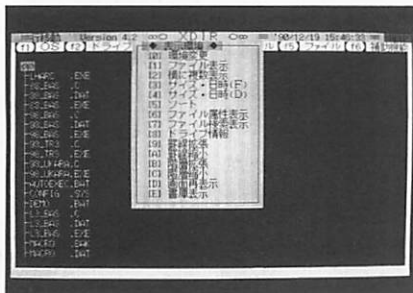


写真3 プルダウンメニュー画面

ウィンドウ関連の操作キー

- ・枠操作関連 (プルダウンメニュー) [f・10]
- ・別のウィンドウを開く (写真4) [+] または [f・8] (f・10 メニューでも可) →ドライブ指定
- ・ウィンドウを開く (再編成・再構成なし) [SHIFT]+[+]
- ・ウィンドウを閉じる [-] → [N]
- ・ウィンドウを閉じる (再編成・再構成なし) [SHIFT]+[-]
- ・マルチウィンドウの画面表示を1つに統合 [B] または [f・9]
- ・アクティブウィンドウの切り替え [<], [>] または [f・7]
- ・アクティブウィンドウのドライブ変更 [T]
- ・ディレクトリ画面の再読み込み [スペースバー]

画面表示操作キー

- ・サイズ、タイムスタンプ表示に切り替え (トグル) [D]
- ・ディレクトリの日時表示 (トグル) [SHIFT]+[D]
- ・ディレクトリ構造のみの TREE 表示 ↔ ファイルも一緒に TREE 表示 (トグル) [F]
- ・ソート (ファイルの TREE 表示順序の並べ替え)

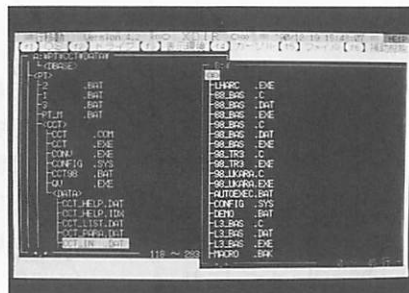


写真4 複数ウィンドウでファイル表示が変化

[S] S キーを押した後、下のライン表示からアルファベットで選択。[N] ファイル名、[E] 拡張子、[D] 日時、[L] ファイル名、[C] キャンセル

- ・TREE 上のファイル交換 [SHIFT]+[S]
- ・ワイド表示 (ウィンドウ状態により、横複数列) [W]
- ・画面表示をワイルドカード (*.**) に戻す [*]
- ・検索表示ファイル名を変更 [SHIFT]+[*] コマンドラインの /? と同じ。

カーソル移動キー

- ・親ディレクトリへ移動 [U]
- ・カーソル行のディレクトリより内部を表示 [J]
- ・カーソル行のディレクトリへカレントを移動 [SHIFT]+[J]
- ・J (ジャンプ) コマンドの設定を解除 [¥]
- ・1行後退 (上方) [B] または [↑]
- ・3行飛び越しの高速移動 [SHIFT]+[B]
- ・1行前進 (下方) [F] or [↓]
- ・3行飛び越しの高速移動 [SHIFT]+[F]
- ・マウスやカーソル移動キーの機能モードを順次変更 [C] または [TAB] 現在の機能状態は画面左上隅に表示。
- ・半ページ後退 [D] か [RollDown]、または [DEL]
- ・テキスト画面転送による高速移動 [SHIFT]+[D] か [RollDown]、または [DEL]
- ・先端に移動 (ファイル全体の先頭) [J] または [HomeCLR]
- ・後端に移動 (ファイル全体の末尾) [.] か [E]、または [SHIFT]+[Hom]



表1 アトリビュート属性表

●アトリビュート属性の表示スイッチ<Attribute>	
R 読み専用ファイル	S システム・ファイル
H 隠しファイル	A アーカイブ・ファイル
●MS-DOS メディア以外のディスクの場合	
Ba Basic ファイル	Bi バイナリ・ファイル
Dt データ・ファイル	As アスキー・ファイル

eCLR]

・左移動(ワイド表示の場合)

[L] か [←], または [BS]

・罫線の段落とし幅を縮小

[SHIFT]+[L], または [←] か [BS]

・サブディレクトリの表示階層の深さを縮小

[CTRL]+[L], または [→] か [BS]

・右移動(ワイド表示の場合)

[L] か [→], または [BS]

・罫線の段落とし幅を拡大

[SHIFT]+[L], または [→]

・サブディレクトリの表示階層の深さを拡張

[CTRL]+[L], または [←] か [BS]

・半ページ前進

[U] か [RollUP], または [INS]

・テキスト画面転送による高速移動

[SHIFT]+[U], または [RollUP] か

[INS]

ファイル&ディスク関連操作キー

・アトリビュート属性表示スイッチ

[A]

・アトリビュート属性変更スイッチ(設定・解除トグル)(表1参照)

[SHIFT]+[A]

・ファイルにマークを付ける(トグル)

[@] マウスの場合は、左クリックしながら右クリック。

・マーク設定後、1行後退。

[SHIFT]+[@]

・全マーク削除

[GRPH]+[@] → [Y]

・コピー(カーソル行のファイル、またはディレクトリ)

[C]

①ディレクトリをコピー対象にした場合は、内部をすべてコピーします。あらかじめコピー先のドライブ、またはディレクトリのウィンドウを開いておくと、どのディレクトリに

コピーするのかわかりやすく指定できます。ウィンドウを開いていない場合は、ドライブ名を入力してウィンドウを開きます。

②単数ファイルのコピーなら相手先がファイルでも可。

③カーソル行がマークの付いたファイルなら、以降のすべてのマークファイルがコピー対象になる(マークファイルすべてをコピーするなら、いちばん上のマークファイルにカーソルバーを移動しておく必要があります)。

・コピー(カーソル行以降のファイル、またはディレクトリ)

[SHIFT]+[C]

[ESC], またはマウスクリックで中断

・ディスクコピー

[GRPH]+[C]

[ESC] で中止

MS-DOS以外の2 HD・2 DDディスクも可。フォーマット未処理の場合は、フォーマットしながらコピー。

・サブディレクトリを作成

[GRPH]+[D]

・削除(ファイル・サブディレクトリ)

[K]

①カーソル行のファイルが単独の場合、そのファイルだけ。

②サブディレクトリの場合、その内部のファイルもすべて削除。

③マークファイルの場合、マークファイルすべてが対象となる。

・リネーム(ファイル名変更)

[N]

①新しいファイル名の前に他のディレクトリ名を付加した場合は、そちらへ移動。

②他のディレクトリ名を指定してファイル名を省略した場合は、同じ名前移動。

・ファイル前方検索

[G] ワイルドカード(*,?)使用可。

マークファイル対象の場合は、@, . @と指定

する。

・ファイル後方検索

[SHIFT]+[G]

[CAPS] ロックの場合、検索ファイル名の設定変更あり。[CAPS] アンロックの場合、検索ファイル名の設定変更なし。

・メディアの異なるディスクを検索

[GRPH]+[T] メディア(OS)タイプを入力、[ESC] で終了。

・テキストファイルにTREE構造書き出し

[O]

・印刷(TREE構造の出力)

[P]

[ESC] で中止

・印刷(キャラクタ簡易罫線表示)

[SHIFT]+[P]

・確定

[:] または [リターン]

ファイルの冷凍・圧縮・解凍

・書庫内のファイル名をTREE表示(写真5)

[GRPH]+[B]

[ESC] で中止

・ファイル群を書庫に冷凍

[GRPH]+[P]

①書庫名を指定するときは拡張子不要。XDIRの書庫は、自動的に「.\$A\$」という拡張子が付けられる。

②ディレクトリを冷凍対象にした場合は、それより内部をすべて冷凍する。あらかじめ冷凍先のドライブ、またはディレクトリのウィンドウを開いておくと、どのディレクトリに冷凍するのかわかりやすく指定することができる。ウィンドウを開いていない場合は、ドライブ名を入力してウィンドウを開く。

③単数ファイルの冷凍なら、相手先がファ

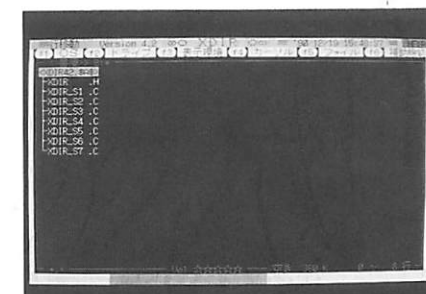


写真5 冷凍ファイル内TREE表示

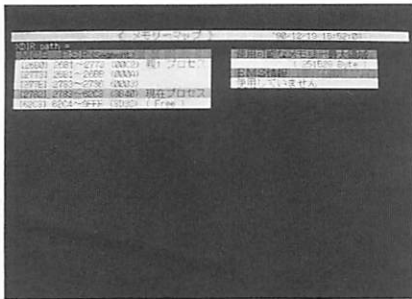


写真7 マルチテキストのメモリマップ画面

- ・表示画面の最下ラインを上げる
[U]
- ・表示画面の最上ラインを上げる
[SHIFT]+[U]
- ・ジャンプ (指定行へ)
[G]
- ・表示行数変更 (20 ↔ 25)
[V]
- ・表示スタイルの変更 (書式)
[S]
- ・窓表示 ↔ 全体表示 (トグル)
[Z]
- ・エディタへ移行 (編集モードへ)
[E]
- ・表示ウィンドウの切り替え
[>]
- ・表示ウィンドウの切り替え (逆順)
[<]
- ・ファイルの内容比較
[F]
[ESC] で中止。開いたウィンドウ間で、指定文字列に違いがあった場合、指定した色で相手ファイルのその部分を表示する。
[ESC] 以外のキーで続行。
- ・マルチテキスト表示中のメモリマップ
[M] (写真7)
- ・プリンタに出力
[P]
タブ値を設定可能 (リターンをみの場合は8が設定)。タブを指定した数の半角スペースに変換。2桁入力方式で1桁の場合は確定にリターンが必要。2桁の場合はリターンは不要。行番号の桁数を入力 (不要な場合は0)、印字幅を3桁入力方式で設定。
- ・表示色の変更 (エディタの項参照)
[C]

その他の機能

ダンプ

トラック内容を16進ダンプで表示することができる。メディアの異なるディスクの内容呼び出しも可能。

- ・終了
[ESC]
- ・呼び出しコマンド
[L]
①ドライブ名を入力
ドライブ名が現在のドライブと異なる場合、続いてメディアタイプを入力。
- ②トラック番号を入力
- ③ダンプ中、ESCキーでトラック番号入力へ戻る。
他の任意のキー入力で次のページを表示。エラーが発生した場合、ESCキーでトラック番号入力へ。

外部コマンド&マクロ

- ・予約コマンドの実行
[H]
- ・予約コマンドの変更・追加設定と実行
[SHIFT]+[H]
- ・MS-DOSのコマンド実行
[M]
[ESC] で中止
- ・カーソル行のファイルを実行
[R]
[ESC] で中止
- ・EXECを実行 (オーバーレイ)
[SHIFT]+[R]
- ・直前実行したコマンドの再実行
[Z]

ディスクインフォメーション

- ・XDIR マップの表示 (写真8) とウィンドウの変更
[I]
現在のカレントドライブ名も表示。変更はJコマンドで。アクティブウィンドウ番号を0~9の範囲で入力する (1桁以上の入力

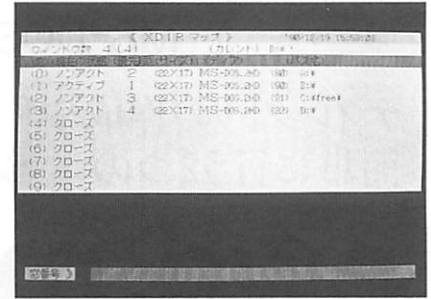


写真8 XDIR マップ画面

- はキャンセルされる。
- ・MS-DOS システムのメモリマップを表示
[SHIFT]+[I]
どれかのキーで復帰する。
- ・ボリューム名表示スイッチ
[V]
- ・枠情報のはみ出し部分の最下ライン表示スイッチ
[SHIFT]+[V]
- ・メモリダンプ (セグメント値を入力)
[X]
- ・現在システムの MCB・PSP セグメントよりダンプ
[SHIFT]+[X]
- ・総クラスタ数を指定したバイト数で計算
[Y]
現在表示ドライブの使用クラスタ数を仮想計算することにより、ディスクからハードディスクへコピーする場合の、必要空き容量が分かる。

*

最後になりましたが、XDIR の紹介にあたっては、付録 [ディスクマガジン] によるディスク配布をはじめとし、作者の武石秀男氏に多大なご協力をいただきました。誌面を借りて感謝の意を表します。 (小松毅史)

作者 ▶ 武石秀男

配布形態 ▶ フリーウェア

所在 ▶ NIFTY-Serve のフォーラム「SDR 工房」(GO FLABO でジャンプ) の2番 → 「XDIR」で検索

ファイル名 ▶ XDIR 420.LZH (LHARC で解凍)